

秋葉原東部町会連合会各町会マップ

安全・安心のまち 千代田
いつまでも住みつづけたいまち 千代田

町会区域住所

- ① 神田佐久間町一丁目
- ② 神田佐久間町二丁目、神田平河町、神田佐久間河岸45～55号地
- ③ 神田佐久間町三丁目、神田佐久間河岸59～78号地
- ④ 神田佐久間町四丁目、神田佐久間河岸81～92号地
- ⑤ 東神田三丁目
- ⑥ 神田和泉町
- ⑦ 神田松永町、神田花岡町
- ⑧ 神田練塀町、神田相生町



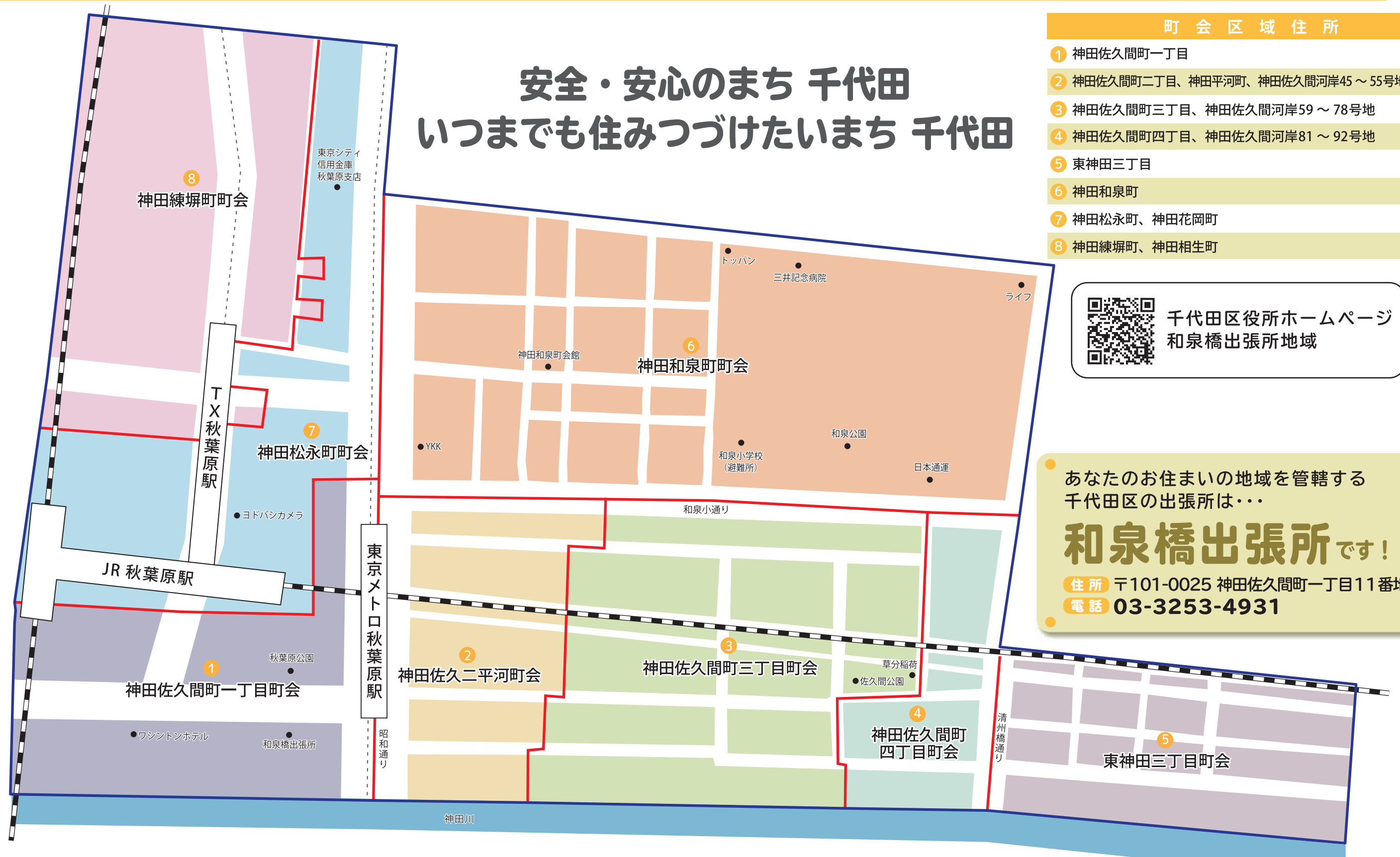
千代田区役所ホームページ
和泉橋出張所地域

あなたのお住まいの地域を管轄する
千代田区の出張所は・・・

和泉橋出張所です！

住所 〒101-0025 神田佐久間町一丁目11番地7

電話 03-3253-4931



秋葉原東部町会連合会 各町会の紹介

安全・安心のまち 千代田

いつまでも住みつづけたいまち 千代田

<佐久間町の由来>

佐久間町の町名は、かつて佐久間平八という材木商が住んでいたことに由来するといわれています。商人の名がそのまま町名になっていることからわかるとおり、この界隈は神田川の舟運と密着し、江戸の商工業の発展にゆかりの深い場所でした。また、神田佐久間町及び神田和泉町一帯は、関東大震災の際、住民が力を合わせて火災から町を守り、関東大震災の奇跡と称賛された住民の結束の固い町です。

町会名／名所等	歴史		町会名／名所等	歴史	
1 神田佐久間町一丁目町会	神田佐久間町一丁目の商人の中で、特に目立ったのは材木問屋でした。あまりに多くの材木問屋が集まっていたため、材木商の間では神田材木町と呼ばれていました。そのほか、薪や炭を扱う業者も多かったようで、幕末から明治にかけて活発な取引が行われ、この町における炭の相場の変動が東京全体の炭の価格に影響していたと伝えられています。明治時代の地図を見ると、現在の秋葉原公園から神田花岡町まで、神田川から引き込んだ水路があり、この町が舟運の中継地として栄えていたことを物語っています。		5 東神田三丁目町会	神田川の北岸に沿った東神田三丁目は、かつて神田八名川町、神田元久右衛門町、神田鶴鳥町、神田向柳原町に分かれていて、町名にはそれぞれゆかりの人物や職業などを見出すことができます。明治の頃まで神田川を利用した舟運が盛んで、久右衛門河岸と呼ばれる荷揚げ場と蔵地になっており、物流の中心地のひとつでした。この町の東端に架かる左衛門から下流を眺めると、屋形船などたくさんの船が繫留されていますが、浅草橋、柳橋を過ぎればすぐ隅田川に合流します。	
2 神田佐久二平河町会	佐久二平河町会は、神田佐久間町二丁目と神田平河町、神田佐久間河岸で構成されています。江戸時代、この界隈は米問屋や材木商を中心とした商人・職人の町でした。この町は火災が多く、ここから出火した大火事を何度も経験しています。そこで、町人たちは、自ら「町火消」という消火隊を組織し、必死の活躍で町を守ってきました。一方、昭和通りに面した神田平河町は火災で類焼した麴町平河町一丁目の代地として神田佐久間町の隣に置かれ、明治2年、現在の神田平河町となりました。		6 神田和泉町町会	和泉町という町名は、この界隈に津藩藤堂（和泉守）家の上屋敷があったことに由来します。この町は、医療機関とのかかわりが深く、明治維新後、津藩邸跡に東京医学所（現・東京大学医学部付属病院の前身）、鶴岡藩邸跡には文部省医務局薬場ができ、明治後期になると三井慈善病院（現・三井記念病院）が開設しました。なお、大正12年の関東大震災の際は、東京の下町が一面焼け野原になる中、和泉町は佐久間町同様、町民の必死の防火活動によって火災を免れ、東京市民の賞賛を浴びました。	
3 神田佐久間町三丁目町会 <small>〈名所〉 草分稲荷</small>	江戸時代、この町の大半は、秋田藩佐竹右京大夫及び安中藩板倉主計頭の屋敷でしたが、佐竹藩邸は八百屋お七による火災後、現在の台東区佐竹商店街に移転しました。また、安中藩邸跡には明治35年、東京市立佐久間尋常小学校が開校し、昭和6年の総武線高架工事により廃校となった後、佐久間公園となりました。この公園には、ラジオ体操の放送間もない昭和5年、万世橋警察署の巡査が地域住民を集め、全国に先駆けて早起きラジオ体操会を始めたことを記念する「ラジオ体操会発祥の地」の碑が建立されています。		7 神田松永町町会	松永町は、元禄11年、江戸城整備の一環として15町の一部を削って外堀沿いの道路が拡幅された際、これらの町に住んでいた人々が現在の外神田一丁目周辺に代地を与えられ誕生しました。商人や職人の住む町として発展を遂げた松永町ですが、徳川幕府との関りも深く、幕府お抱えの絵師・狩野探信の拝領屋敷がありました。また、文政7年の「江戸買物独案内（えどかいものひとりあんない）」には、弓を射るときに用いる碟（ゆがけ）を作る御用職人・釘元又左衛門が住んでいたことも記されています。	
4 神田佐久間町四丁目町会	神田佐久間町四丁目には、江戸から明治にかけて材木や薪炭を扱う商人のほか、米穀商人が集まり、佐久間河岸には米蔵が立ち並んでいました。一方、この界隈は火事が多く、享保3年には、火災で焼けた町の一部が火除地とされ、住民は現在の東松下町周辺に移動するよう命じられます。しかし、河岸に隣接するこの地を離れがたく、住民は奉行所に願い出て焚火をしない、建物の間を空けるなどの条件付きで、火除地の使用許可を得ました。その結果、この町は商人や職人の町として発展を続けました。		8 神田練堀町町会	練堀とは、瓦と練土を交互に積み上げ、上部を瓦で葺いた土堀のことで武士たちに好まれていました。江戸時代、この界隈は練堀が一带に広がる武家地で、ことに神田から下谷まで通じる道には立派な練堀の屋敷が多かったことから「下谷練堀小路」と呼ばれていました。明治に入り、このあたりに国鉄の秋葉原貨物駅ができ、関東大震災後に神田青果市場が移ってきてから東京の物流拠点のひとつになりました。その後、神田市場移転後の開発やつくばエクスプレスの開通とともに練堀町は大きな変貌を遂げています。	